

日興ワールド CBファンド (円ヘッジなしコース)

【繰上償還 運用報告書(全体版)】

(2019年5月14日から2019年7月18日まで)

第 9 期

償還日 2019年7月18日

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2011年5月31日から2019年7月18日 (当初、2021年5月12日) まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として、新興国を含む世界の企業が発行するCB(転換社債)等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス 新興国を含む世界のCB等 マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■新興国を含む世界各国のCB(転換社債)などを実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年1回(原則として毎年5月12日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

受益者の皆さまへ

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として、新興国を含む世界の企業が発行するCB(転換社債)等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指しました。当期についても、運用方針に沿った運用を行い、2019年7月18日に繰上償還となりました。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債券組入 比率	投資信託 証券組入 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
5期(2016年5月12日)	10,683	0	△12.7	1.8	96.5	533
6期(2017年5月12日)	11,298	330	8.8	1.9	92.1	335
7期(2018年5月14日)	11,119	500	2.8	2.6	84.4	286
8期(2019年5月13日)	10,583	0	△4.8	0.4	96.7	258
(償還時)	(償還価額)					
9期(2019年7月18日)	10,593.30	—	0.1	—	—	201

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入 比率	投資信託証券 組入比率
		騰落率		
(期首)	円	%	%	%
2019年5月13日	10,583	—	0.4	96.7
5月末	10,425	△1.5	0.5	96.7
6月末	10,518	△0.6	0.5	98.2
(償還時)	(償還価額)			
2019年7月18日	10,593.30	0.1	—	—

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

設定以来の運用状況（設定日（2011年5月31日）から償還日（2019年7月18日）まで）

設定以来の基準価額の推移



前期までの概略（設定日（2011年5月31日）から第8期末（2019年5月13日）まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国のCB（転換社債）に投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いました。

【第1期（設定日2011年5月31日～2012年5月14日）】

<p>上昇要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ E C B（欧州中央銀行）による長期資金供給を受けて、12月のC B市場は上昇しました。資金供給により欧州の銀行が直面していた流動性の問題が解消するとの期待が強まり、株価が上昇するとともに、合わせてクレジットスプレッド（国債に対する上乗せ金利）の縮小を受けてC B市場は上昇しました。 ・ 予想を上回る米国経済指標や中国のインフレ率の鈍化を好感し、同地域の株式市場が上昇、C B市場に対しプラスに働きました。
<p>下落要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011年夏のC B市場は、S & P社（スタンダード&プアーズ、米格付け会社）による米国およびユーロ圏周辺国の格下げなど、マクロ経済要因の影響を受けました。特に7月下旬から8月にかけては、株価下落による影響を大きく受け、C B市場を始めとするリスク資産も大きく下落しました。9月から11月にかけてはクレジットスプレッドの拡大がC B市場に大きく影響し、特にファンドが投資対象とする新興国ではその影響が顕著でした。 ・ 新興国の中央銀行は、2009年に経験した以上にインフレへの警戒を強めており、世界的な景気後退懸念に対して、先進国で行われた量的緩和は実施しませんでした。むしろ中国人民銀行（中央銀行）やシンガポール通貨庁の行動が示すように、自国通貨の上昇を容認していましたが、投資家のリスク回避度が高まったため、新興国通貨は下落しました。

【第2期（2012年5月15日～2013年5月13日）】

<p>上昇要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ C B市場は、E C Bのドラギ総裁がユーロ圏を支えるため全力を尽くすとコメントしたことなどから、ユーロ圏崩壊に対する懸念が後退し上昇しました。 ・ 2013年に入りC B市場は、財政の崖（減税措置の失効と歳出の強制削減が重なること）問題が先送りされたことを受けて上昇しました。
-------------	--

日興ワールドC Bファンド（円ヘッジなしコース）

【第3期（2013年5月14日～2014年5月12日）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none">・ C B市場は、シリアなどの地政学リスクの高まりや中国の金融システムに対する懸念を受けて一時的に下落する局面もありましたが、米国を中心とした先進国景気への楽観的な見方に支えられ、概ね堅調に推移しました・ リスク回避姿勢が後退し、主要通貨に対し円安が進行しました。
下落要因	<ul style="list-style-type: none">・ バーナンキ前FRB（米連邦準備制度理事会）議長の量的金融緩和縮小を示唆する発言を受けグローバルに資産価格が下落しました。特に、新興国の株式市場や社債ファンドからの資金流出が記録的な水準に達しました。・ リスク回避の投資行動の高まりから安全通貨とされる円が上昇しました。

【第4期（2014年5月13日～2015年5月12日）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none">・ 2014年12月半ば以降、世界の株価が堅調に推移したことなどを背景にC B市場が上昇したこと・ 為替相場における対米ドルでの円安
下落要因	<ul style="list-style-type: none">・ 2014年9月下旬から10月中旬にかけて、および12月上旬から12月半ばにかけて、株式市場が軟調だったことおよび主要通貨が対円で軟調に推移したこと

【第5期（2015年5月13日～2016年5月12日）】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none">・ 8月下旬から年末および2月末から4月半ばにかけて、世界の株価が堅調に推移したことなどを背景にC B市場が上昇したこと
下落要因	<ul style="list-style-type: none">・ 期首から8月中旬および1月初旬から2月下旬にかけて、世界の株価が軟調に推移したことなどを背景にC B市場が下落したこと・ 為替相場における対米ドルでの円高

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

【第6期(2016年5月13日～2017年5月12日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none">・ 7月から期末にかけて、世界の株価が概ね堅調に推移したことからCB市場が上昇したこと・ 米ドル高・円安となったこと
下落要因	<ul style="list-style-type: none">・ 期首から6月末にかけて、世界の株価が軟調に推移したことからCB市場が下落したこと

【第7期(2017年5月13日～2018年5月14日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none">・ 期初から1月にかけて、米国の株価が堅調に推移したことなどを背景にCB市場が上昇したこと・ ユーロが円に対して上昇したこと
下落要因	<ul style="list-style-type: none">・ 2月から3月にかけて、世界の株価が乱高下しながら下落したことなどを背景にCB市場が下落したこと・ 米ドルが円に対して下落したこと

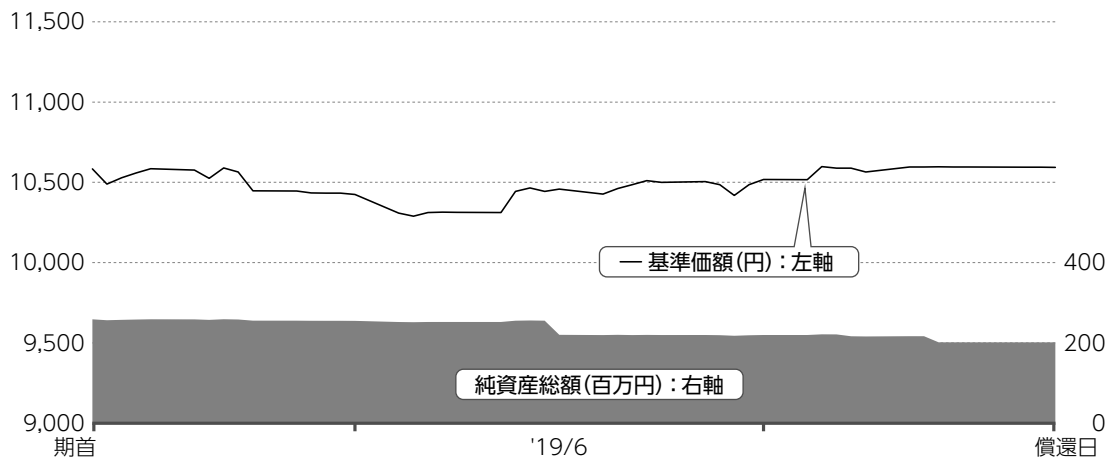
【第8期(2018年5月15日～2019年5月13日)】

下落要因	<ul style="list-style-type: none">・ 期初から12月にかけて、主要株式市場の下落を受けて、CB価格が下落したこと・ 個別ではARM（オーストリア）などの価格が大きく下落したこと・ 期を通じて、対円でユーロが下落したこと
------	--

1 運用経過

基準価額等の推移について（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

基準価額等の推移



期首	10,583円
----	---------

償還日	10,593円30銭
-----	------------

騰落率	+0.1%
-----	-------

基準価額の主な変動要因（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国のCB（転換社債）に投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いませんでした。

上昇要因

- 6月から7月上旬にかけて、主要株式市場の上昇を受けて、CB価格が上昇したこと

下落要因

- 期初から5月末にかけて、主要株式市場の下落を受けて、CB価格が下落したこと
- 期を通じて、円が対米ドル、対ユーロでともに円高となったこと

投資環境について（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

C B市場は期を通じて見れば小幅上昇でした。為替は期を通じて、円が対米ドル、対ユーロでともに円高となりました。

C B市場

当期は、方向感に欠ける展開ながら小幅上昇となりました。

期初から5月末にかけては、主要株式市場の下落を受けて、C B価格が下落しました。5月上旬に米トランプ大統領が突如、中国に対する追加の制裁関税を発表したことが嫌気されました。しかし、6月に入ると月末のG20(主要20カ国・地域)サミットで、米中首脳会談が開催されるとの見通しから市場は反発に転じ、その後も両首脳が貿易交渉の継続で合意したことを受けて、主要株式市場は上昇しました。C B価格も5月の下げを取り戻す形で、6月以降は反発し、結局、小幅上昇で期を終えました。

当期の市場の動きをトムソン・ロイター・グローバル・フォーカス・ヘッジド・C B・インデックス(米ドルベース)で見ると、2.5%の上昇となりました。

為替市場

期を通してみると、円は対米ドル、対ユーロでともに小幅な円高となりました。

5月上旬の米トランプ大統領による中国への追加制裁関税の発表を受けて、世界経済に対する慎重な見方が一気に広がったことから、リスク回避資産と見られている円が買われやすい展開となりました。また、市場の景気減速懸念が強まる動きに対して、欧米両金融当局が利下げを含む金融緩和策の実施の検討などを表明したことも、円高が進みやすい材料となりました。

米ドルは対円で、期初の109円74銭から期末は107円84銭と1円90銭の円高・米ドル安となりました。ユーロは対円で、期初の123円25銭から期末は121円13銭と、2円12銭の円高・ユーロ安となりました。

ポートフォリオについて（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

当ファンド

「ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス」および「マネー・マーケット・マザーファンド」を主要投資対象とし、7月までは「ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス」の高位組入れを維持するとともに、償還に向けては現金化を進めました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、流動性の確保を目指した運用を行いました。

ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス

基本的に価格下落リスクを抑制した慎重な運用を行いました。株式市場の上昇により目標価格に達し、株式感応度が上昇した銘柄を売却し、市場全体との対比ではやや低位の株式感応度を維持しました。株式的価値と債券的価値のバランスの取れたCBを選好する観点から、魅力があると判断した新規発行銘柄も組み入れました。また、償還に備えて7月に入ってからポートフォリオの売却、現金化を実施しました。

ベンチマークとの差異について（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

償還のため、該当事項はございません。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

繰上償還について

当ファンドは2011年5月に設定され、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行ってまいりましたが、信託約款の繰上償還規定の「受益権の口数が10億口を下回る」状態が継続しており今後も受益権口数の増加が見込み難く、繰上償還することが受益者の皆さまにとって有利であると判断し、信託約款の規定に従い信託契約を解約し、繰上償還を実施させていただきました。

法令および信託約款の規定に従い、2019年5月31日に書面決議を行い、投資家の皆さまの賛成多数により可決されたため、2019年7月18日をもって繰上償還となりました。

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

■ 1万口当たりの費用明細（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	22円	0.210%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数）
（投信会社）	(6)	(0.053)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(16)	(0.152)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.006)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.000	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（その他）	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	22	0.210	

期中の平均基準価額は10,471円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の費用は後掲の「包括利益計算書」をご覧ください。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

(1) 投資信託証券

		買付		売付	
		口数	買付額 千円	口数	売付額 千円
国内	ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス	—	—	161,076,449	250,201
	合計	—	—	161,076,449	250,201

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設定		解約	
	口数	金額 千円	口数	金額 千円
マネー・マーケット・マザーファンド	—	—	1,548	1,550

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 利害関係人との取引状況等（2019年5月14日から2019年7月18日まで）

利害関係人との取引状況

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

日興ワールドC Bファンド（円ヘッジなしコース）

マネー・マーケット・マザーファンド

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D C
公 社 債	百万円 17	百万円 17	% 100.0	百万円 -	百万円 -	% -

※平均保有割合 1.7%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、S M B C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年5月14日から2019年7月18日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2019年7月18日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	期首(前期末)	期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	組 入 比 率
ワールド・C B・ファンド 円ヘッジなしクラス	口 161,076,449	口 -	千円 -	% -
合 計	161,076,449	-	-	-

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 1,548	千口 -	千円 -

※単位未満は切捨て。

■ 投資信託財産の構成

(2019年7月18日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 201,914	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	201,914	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2019年7月18日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	201,914,810円
コール・ローン等	201,914,810
(B) 負 債	500,506
未払信託報酬	499,776
未払利息	542
その他未払費用	188
(C) 純資産総額(A-B)	201,414,304
元 本	190,133,638
償 還 差 益 金	11,280,666
(D) 受 益 権 総 口 数	190,133,638口
1万口当たり償還価額(C/D)	10,593円30銭

※当期における期首元本額244,526,872円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額54,393,234円です。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2019年5月14日 至2019年7月18日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 4,885円
支 払 利 息	△ 4,885
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	561,078
売 買 益	1,275,537
売 買 損	△ 714,459
(C) 信 託 報 酬 等	△ 500,210
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	55,983
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△12,398,998
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	23,623,681
(配 当 等 相 当 額)	(16,936,295)
(売 買 損 益 相 当 額)	(6,687,386)
償 還 差 益 金 (D+E+F)	11,280,666

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

■ 投資信託財産運用総括表

信 託 期 間	投資信託契約締結日	2011年5月31日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年7月18日		資 産 総 額	201,914,810円
区 分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負 債 総 額	500,506円
受 益 権 口 数	9,774,560,387口	190,133,638口	△9,584,426,749口	純 資 産 総 額	201,414,304円
元 本 額	9,774,560,387円	190,133,638円	△9,584,426,749円	受 益 権 口 数	190,133,638口
				1 万 口 当 た り 償 還 金	10,593.30円
毎計算期末の状況					
計 算 期	元 本 額	純 資 産 総 額	基 準 価 額	1 万 口 当 た り 分 配 金	
				金 額	分 配 率
	円	円	円	円	%
第 1 期	5,216,644,841	4,645,671,736	8,905	0	0.00
第 2 期	1,227,983,003	1,409,217,447	11,476	740	7.40
第 3 期	685,609,171	754,225,505	11,001	920	9.20
第 4 期	635,567,274	777,668,393	12,236	500	5.00
第 5 期	499,309,833	533,390,377	10,683	0	0.00
第 6 期	297,102,785	335,663,388	11,298	330	3.30
第 7 期	257,457,625	286,256,089	11,119	500	5.00
第 8 期	244,526,872	258,777,093	10,583	0	0.00

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

■ 組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）
主要投資対象	新興国を含む世界のCB等。
運用の基本方針	・新興国を含む世界のCB等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ・対円での為替ヘッジを行いません。
ベンチマーク	ありません。
分配方針	毎年4月25日（休業日の場合は前営業日）に分配を行う方針。
運用報酬等	純資産総額に対して年0.82%
管理およびその他の費用	ファンドの設立、取引関連費用、法的費用、会計・監査、税務上の費用および受託者報酬ならびにその他の費用を負担します。 その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	一部解約時に0.3%
投資顧問会社	シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
副投資顧問会社	エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント（フランス）
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ワールド・CB・ファンド 円ヘッジなしクラス」をシェアクラスとして含む「ワールド・CB・ファンド」の情報を、委託会社において抜粋・要約して翻訳したものを記載しています。

■ 包括利益計算書(2017年11月1日から2018年10月31日まで)

	(千円)
受取利息	15,513
損益を通じて公正価値評価される金融商品にかかる純損失	(207,980)
純為替差損	(3,120)
収益合計	<u>(195,587)</u>
管理報酬	(14,680)
事務代行、名義書換代理人および保管報酬	(2,165)
監査報酬	(3,635)
受託報酬	(1,237)
支払利息	(248)
銀行手数料	(124)
財務諸表作成費用	(772)
弁護士費用	(336)
諸費用	(62)
営業費用合計	<u>(23,259)</u>
税引前営業損失	(218,846)
源泉徴収税	(194)
営業による受益証券保有者に帰属する純資産の変動額および当期包括利益合計	<u>(219,040)</u>

日興ワールドCBファンド（円ヘッジなしコース）

■組入上位30銘柄

ワールド・CB・ファンド

銘柄	通貨	クーポン	償還日	組入比率
YANDEX NV YNDX 1 1/8 12/15/18	USD	1.125%	2018/12/15	3.48%
SONY CORP SNE 0 09/30/22	JPY	0.000%	2022/9/30	3.41%
NUANCE COMMUNIC NUAN 1 12/15/35	USD	1.000%	2035/12/15	2.99%
PRYSMIAN SPA 0% 17JAN2022	EUR	0.000%	2022/1/17	2.87%
CHINA OVRS FIN 5 CHCONS 0 01/05/23	USD	0.000%	2023/1/5	2.83%
LG CHEM LTD LGCHM 0 04/16/21	USD	0.000%	2021/4/16	2.68%
DP WORLD LTD DPWDU 1 3/4 06/19/24	USD	1.750%	2024/6/19	2.60%
HON HAI PRECISION INDUST 0% 06NOV2022	USD	0.000%	2022/11/6	2.51%
CTRP.COM INTL LTD 1% 01JUL2020	USD	1.000%	2020/7/1	2.46%
GLENCORE FUNDING LLC 0% 27MAR2025	USD	0.000%	2025/3/27	2.37%
BENI STABILI BNSIM 0 7/8 01/31/21	EUR	0.875%	2021/1/31	2.33%
WEIBO CORP WB 1 1/4 11/15/22	USD	1.250%	2022/11/15	2.32%
MICROCHIP TECH MCHP 1 5/8 02/15/27	USD	1.625%	2027/2/15	2.14%
JP MORGAN CHASE BANK NA 0% 30DEC2020	USD	0.000%	2020/12/30	2.08%
PALO ALTO NET PANW 0 3/4 07/01/23	USD	0.750%	2023/7/1	2.07%
AYC FINANCE LTD AYCFIN 0 1/2 05/02/19	USD	0.500%	2019/5/2	2.00%
BAGAN CAPITAL KNBZMK 0 09/23/21	USD	0.000%	2021/9/23	1.92%
NABORS INDS INC NBR 0 3/4 01/15/24	USD	0.750%	2024/1/15	1.77%
BIOMARIN PHARM BMRN 1 1/2 10/15/20	USD	1.500%	2020/10/15	1.73%
SAFRAN SA SAFFP 0 06/21/23	EUR	0.000%	2023/6/21	1.67%
HARVEST INTERNATIONAL CO 0% 21NOV2022	HKD	0.000%	2022/11/21	1.61%
BAYER AG BAYNGR 0.05 06/15/20	EUR	0.050%	2020/6/15	1.57%
SACYR SA VLHM 4 05/08/19	EUR	4.000%	2019/5/8	1.51%
JAZZ INVT I LTD JAZZ 1 7/8 08/15/21	USD	1.875%	2021/8/15	1.48%
INDRA SISTEMAS S IDRSM 1 1/4 10/07/23	EUR	1.250%	2023/10/7	1.47%
QIAGEN NV QGEN 0 1/2 09/13/23	USD	0.500%	2023/9/13	1.45%
YANGTZE PWR INTL YANGTZ 0 11/09/21	USD	0.000%	2021/11/9	1.41%
LIVE NATION ENT LYV 2 1/2 03/15/23	USD	2.500%	2023/3/15	1.40%
CEMEX SAB CEMEX 3.72 03/15/20	USD	3.720%	2020/3/15	1.40%
ABIGROVE LTD 0% 16FEB2022	USD	0.000%	2022/2/16	1.38%

※シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドからデータの提供を受けて作成しています。

※データは現地2018年10月31日現在のものです。

マネー・マーケット・マザーファンド

第8期 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2011年5月31日)
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債券組入 比率	純資産 総額
	円	期中 騰落率		
4期 (2015年3月2日)	10,035	0.1	98.5	97
5期 (2016年3月1日)	10,039	0.0	84.3	93
6期 (2017年3月1日)	10,033	△0.1	66.0	137
7期 (2018年3月1日)	10,025	△0.1	76.9	90
8期 (2019年3月1日)	10,019	△0.1	74.1	89

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■当期中の基準価額と市況等の推移

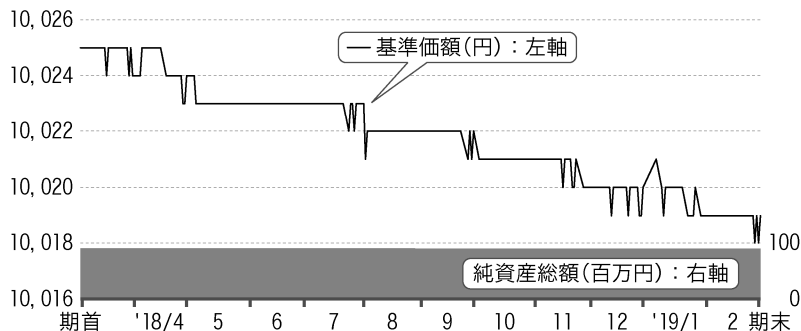
年月日	基準価額		債券組入 比率
	円	騰落率	
(期首) 2018年3月1日	10,025	—	76.9
3月末	10,024	△0.0	76.8
4月末	10,024	△0.0	77.1
5月末	10,023	△0.0	76.9
6月末	10,023	△0.0	76.9
7月末	10,023	△0.0	77.0
8月末	10,022	△0.0	77.5
9月末	10,022	△0.0	77.4
10月末	10,021	△0.0	77.3
11月末	10,020	△0.0	74.1
12月末	10,020	△0.0	74.0
2019年1月末	10,019	△0.1	73.9
2月末	10,018	△0.1	54.9
(期末) 2019年3月1日	10,019	△0.1	74.1

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

基準価額等の推移



期首	10,025円
期末	10,019円
騰落率	-0.1%

▶ 基準価額の主な変動要因 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

当期の短期金利は小幅上昇しましたが、マイナス圏での推移は継続しました。

物価上昇率が目標とする2%まで乖離がある状態が続いたことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

日銀は需給動向を勘案しながら短期国債の買入れを調整したことから、国庫短期証券3ヵ月物利回りはマイナス圏でのレンジ推移となりました。国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.200%に対し、期末には-0.180%へ小幅上昇しました。

▶ ポートフォリオについて (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月の円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを継続しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏で推移しています。

残存0年から1年3ヵ月の公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.013% (0.013)	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数 その他: 信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.013	

期中の平均基準価額は10,021円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内	特殊債券	千円 66,995	千円 - (69,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※()内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年3月2日から2019年3月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2019年3月1日現在)

公社債

A 債券種類別開示／国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	66,000 (66,000)	66,582 (66,582)	74.1 (74.1)	— (—)	— (—)	— (—)	74.1 (74.1)
合 計	66,000 (66,000)	66,582 (66,582)	74.1 (74.1)	— (—)	— (—)	— (—)	74.1 (74.1)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※一印は組入れなし。

B 個別銘柄開示／国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期		末	
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
		%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第5回 政府保証阪神高速道路債券	1.3	17,000	17,238	2020/3/18
	第8回 政府保証地方公営企業等金融機構債券	1.5	16,000	16,056	2019/5/24
	第95回 政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.2	17,000	17,173	2019/12/27
	第3回 政府保証地方公共団体金融機構債券	1.5	16,000	16,113	2019/8/16
合 計	計	—	66,000	66,582	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 投資信託財産の構成

(2019年3月1日現在)

項 目	期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
	千円	%		
公 社 債	66,582	62.2		
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	40,473	37.8		
投 資 信 託 財 産 総 額	107,055	100.0		

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年3月1日現在)

項目	期末
(A) 資産	107,055,375円
コール・ローン等	40,251,327
公社債(評価額)	66,582,000
未収利息	222,048
(B) 負債	17,239,090
未払金	17,238,850
未払利息	33
その他未払費用	207
(C) 純資産総額(A-B)	89,816,285
元本	89,650,363
次期繰越損益金	165,922
(D) 受益権総口数	89,650,363口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,019円

※当期における期首元本額90,260,179円、期中追加設定元本額76,811,023円、期中一部解約元本額77,420,839円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

日興ワールドCBファンド(通貨アルファ戦略コース)	8,495,310円
日興ワールドCBファンド(円ヘッジありコース)	2,445,519円
日興ワールドCBファンド(円ヘッジなしコース)	1,548,154円
インド内需関連株式ファンド	119,759円
高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/3か月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/3か月決算型)	1,456,790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(原定為替ヘッジ)	1,237,272円
三井住友・ニュー・アジア・ファンド	369,177円
アジア好利回りリート・ファンド(年1回決算型)	997円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし/年2回決算型)	1,187,376円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(原定為替ヘッジ/年2回決算型)	389,132円
日興フィデリティ世界企業債券ファンド(為替ヘッジあり)	209,527円
日興フィデリティ世界企業債券ファンド(為替ヘッジなし)	179,593円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジあり)	289,352円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジなし)	419,066円
アジア高利回り現地通貨建て債券ファンド(毎月分配型)	9,963円
アジア高利回り現地通貨建て債券ファンド(資産成長型)	9,963円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド(年1回決算型)	7,882,655円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2018年3月2日 至2019年3月1日)

項目	当期
(A) 配当等収益	974,849円
受取利息	985,681
支払利息	△ 10,832
(B) 有価証券売買損益	△ 1,021,170
売却損	△ 1,021,170
(C) 信託報酬等	△ 12,121
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 58,442
(E) 前期繰越損益金	225,710
(F) 追加信託差損益金	168,977
(G) 解約差損益金	△ 170,323
(H) 計(D+E+F+G)	165,922
次期繰越損益金(H)	165,922

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。